

「ことばのカトリアル第9号」

「海洋技術コース 府民交流フェスタ」

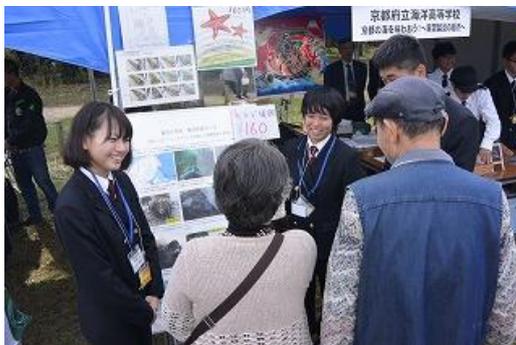
令和元年 11 月 3 日（日・祝）、京都府立植物園（京都市）を会場に「府民交流フェスタ」が開催されました。海洋技術コース 3 年生 3 名が参加し、研究等の取組を、来場された方へ発信しながら、実習で作ったウニやヒトデの堆肥の販売をしました。会場では多くのお客様に御来店いただき、多くのヒトデ堆肥を販売することができました。御購入いただきました皆様、ありがとうございました。

3 年 節安 歩冬

初めて堆肥を販売し、販売するということが本当に難しいことなのだと感じました。一緒に参加した食品経済コースの人たちは販売がとても上手で、私も参考にして販売できるようにしていきたいです。来場者に堆肥の説明をするとき、どう伝えたらわかりやすく、興味を持ってもらえるかなどを考えて話していました。ヒトデという言葉に海らしさを感じて興味を持っていただいたので、ヒトデで作ったということをもっと積極的に宣伝すると、もっと売れるのではないかと感じました。今回の販売を次回の販売に生かしたいと思います。



3 年 坂本 ほのか



今回、私たちは京都市内で行われた「府民交流フェスタ」に参加させていただき、ヒトデ堆肥を販売しました。最初はお客様と話すのが恥ずかしくて、良さを伝えることができませんでしたが、だんだん慣れていき、自然に話しかけることができるようになり、堆肥だけではなく学校の紹介もすることができました。「堆肥が重いから持ち帰るのが大変」や「畑を持っていないから」という人が多く、畑や花を植えている人は高齢の方が多いので堆肥を持って帰るのが大変だと思いました。今後は、どうすればもっと堆肥が買いやすくなるのかを考え、売り上げを伸ばせるようにしていきたいと思いました。

3 年 山本 叶弥

今回堆肥販売を行い、人前で商品を販売することを初めて体験しました。最初は緊張と不安でいっぱいでしたが、会場で実際に販売をすると、ヒトデで作る堆肥が気になり立ち止まってくださる方や、野菜を育てている方に買っていただくことができました。自分はわかっている、それを全く知らない人に説明するのは難しいことを、今回の堆肥販売を通して感じることができました。また、笑顔で話をすることで、お客様の笑顔を観られることができ、うれしく感じました。

今回の堆肥販売で、人にわかりやすく簡潔に説明する難しさやお客様に笑顔で販売をする大切さがわかりました。また、周りの人が動いてくれているという考えでは自分のためにもならないことを、販売を通して理解することができました。

